大学入試 実戦国語 現代文・随想

見本



基礎問題

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。(城西大・経済)

う。司馬遷である。司馬遷は何時も心にあるものを包み隠すこ となく、すべてを相手に話したという。 西郷隆盛には、どうしても敵わないと思う大人物がいたとい

をするのが巧みだというような例を数多く見てきた。(ア) 通して物事を決めてゆくように見えるが、よく整理しながら聞 世の中に理論家といわれる人達がいて、いつも理路整然と筋を じつけて、巧みに1粉飾して筋が通っているように見せかける。 己の行動は衝動的欲求に支配されていながら、それに理屈をこ 結論を決めるとき大いに感情的であり、あとはそれに理論武装 いてゆくと、そのたびそのたびに結論は_A_し、実は最初に ことはない。最も極端な例が、タテマエとホンネであろう。自 そこまでいかなくても、いささか話したくない部分が人間に 普通の人間は相手に対し包み隠すところが多く、本心を話す

を隠すことになる。したがって、自分の心の中を1隈なくひら で、それは劣情として残り、他人に話し得ない部分として自分 はある。しかし、考えてみればそういった部分は誰でもあるの

> 理矢理自我を殺すと考える人が多いが、決してそんなことはな ことは、小我を捨てて大我につくということである。なにか無 たものが整理されているということである。修養を積むという いて見せられるということは、自分の心の中にあるどろどろし 解答・解説⇒別冊2ページ

い。(イ)

果、やったあとに自分のうちに起こるであろう心象的な感情の 小欲を満足させると、その結果どうなるのかを全く考えていな を打っても、その相手が打ち返すことは怪しからんと考える。 足させることを考えると、これは大抵万人に共通なので、ここ ら、大我につくことが出来ない。最も強い欲求である大我を満 い。ただただ、「やりたいからやらせろ」だけである。その結 てを語っても、争いを生むことはないはずなのである。(ウ) までゆけばお互いによく理解できるはずだから、心の中のすべ ところが大抵の凡俗は、小我を見切ることも殺すことも嫌うか ところが、世の中には3我儘な小人が沢山いる。相手の4頰 つまり、我という点からいえば、大きく成功したのである。 問五

これでは心の中のものを包み隠さず話し聞かせても、 話が通

誘発すら予想出来ないでいる。(エ)

じるはずはないし、話すだけ馬鹿馬鹿しいということになる。

なる軍功をたたえて弁護したときに罪を問われ、 現の司馬遷は、敗戦して敵に降った李陵 将軍のそれまでの勇猛 5 恥辱にまみ

れて一生を過ごすことになったのである。(オ)

問

活い

何でも思う通りにやれるという修養の極致に達することになる。 点であろう。両者が揃えば を行ったときは、その帰結を見通す力がどこまであるかという どこまで見抜いて欲望の整理が出来ているかという点と、何か | B | で、やろうと思うことは

ここで考え直してみると、a人間の価値の一つは、b自己を

かしたのである。」 西郷隆盛は自分の能力の限界を知り、 次に示す一文は、空欄アーオのいずれかの所に入るものである。最も適当と思うものを、 小我の無価値を見切り、他人の才能を花開かせることによって大西郷となり、小我を

記号で答えよ

(西沢潤一「私のロマンと科学」)

問二 傍線部1~5の漢字の読み方を、平仮名で記せ。

次に示すものの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えよ。

空欄A・Bを補うのに最も適当と思われる語句を、 \Box 発展 /\ 反転 = 矛盾

波線部a「人間の価値の一つ」の指示範囲は、次のうちのどれか。 天下無敵 唯我独尊

問四

B : イ

伝家の宝刀

= 一事が万事

朩 固定

朩 百事如意

イ~ハの中から一つ選び、記号で答えよ。

自己をどこまで見抜いて欲望の整理が出来ているかという点

何かを行ったときに、その帰結を見通す力がどこまであるかという点

るかという点 自己をどこまで見抜いて欲望の整理が出来ているかという点と、何かを行ったときに、その帰結を見通す力がどこまであ

字以内で記せ。

波線部b「自己をどこまで見抜いて欲望の整理が出来ているか」、とほぼ同じ意味の箇所を、 本文中から抜き出して、 十五

随

善意、

純情の善人から、思わぬ迷惑をかけられた苦い経験は数

るものはないのである。ぼく自身の記憶から言っても、 考えてみると、およそ世の中に、 由来ぼくの最も嫌いなものは、善意と純情との二つに尽きる。 1善意の善人ほど始末に困 ぼくは

くにとっては案外始末のよい、付き合い易い人間なのだ。とい えは、【A】ほとんどないからである。悪人というものは、ぼ 限りなくあるが、聡明な悪人からクaハイを嘗めさせられた覚

う意味は、悪人というのは概して聡明な人間に決まっているし、

それに悪というもの自体に、なるほど現象的には無限の変化を

グラマーとでもいうべきものがあるからである。1悪は決して 無法でない。そこでまずぼくの方で、彼らのグラマーを一応心 示しているかもしらぬが、本質的にはおのずからにして基本的

得てさえいれば、決して彼らはムbキドウに、下手な剣術使い 相手に対しては仕掛けをしないのが常のようである のグラマーが相手によっても心得られていると気づけば、 のような手では打ってこない。むしろ多くの場合、彼らは彼ら それにひきかえ 善意、純情の犯す悪ほど困ったものはない その

ある。無文法にある。警戒の手が利かぬのだ。

悪人における始

善意から起こる近所迷惑の最も悪い点は、一にその無法さに

いか。

動機が善意であるというだけの理由で、 を被ったと仮定する。開き直って詰問すると、彼らはさも待っ るものとでも考えているらしい。「C 一切の責任は解除され]ぼくがある不当の迷惑

のである。

第一に退屈である。

В

]最もいけないのは、彼らはただその

は深く一揖して、深甚な感謝をさえ示さなければならぬという、 らぬばかりか、おまけに底知れぬ彼らの善意に対し、逆にぼく 果であるところの不当な被害を、 ていましたとでも言わんばかりに、 4錦の御旗なのだ。 まことに3奇怪な義務を負っていることを発見する。驚くべき 意を語り、純情を披瀝する。驚いたことに、 □Ⅱ□として忍ばなければな 切々、 I 途端にぼくは、 としてその善

解答・解説⇒別冊3ページ

きることを知らぬ知的エンジョイメントの連続なのではあるま その退屈さ加減を想像しただけでもたまらぬが、それに反して イアゴーとともにある地獄の日々は、 か。ひそかに思うに、ぼくは*オセロとともに天国にあるのは それにしても世上、なんと善意、純情の売り物の夥しいこと それこそ最も新鮮な、

善人のゲームにはルールがない。どこから飛んでくるか分から 付き合い易い、後くされのない人たちばかりなのだ。ところが、 ぬ一撃を、絶えずぼくは┃Ⅲ┃として恐れていなければならぬ 末のよさは、彼らのゲームにルールがあること、 ルールに従って警戒をさえしていれば、彼らは D したがって、 きわめて

7

ŋ 欺かれる愚かな善人さえいなくなれば、すべて得難い美徳だと さえ思っているのだが、どうだろうか。 ベリズムの名とともに連想される一切の観念は、それによって しては評判の悪いものであるが、むしろぼくはこれら*マキア cケンボウとか、術数とかは、およそ世の道学的価値観念から その意味から言えば、ぼくは聡明な悪人こそは5地の塩であ 世の宝であるとさえ信じている。狡知とか、奸知とか、

って嬉しいのである。 命に近づいてほぼそこまで到達しえたかと思うと、いささかも っている。ぼく年来の念願だった偽善修業も、ようやく齢1知 しさいわいにしてそれが真実ならば、ぼくは非常に嬉しいと思 近来のぼくは6偽善者として悪名高いそうである。だが、 ₹

たることを念願するのではない。ぼくはむしろ世上一人でも多 もっとも、これはなにもぼくだけが一人悪人となり、 偽善者

問一

不法なルール外の迷惑を被るものはなく、すべて整然たるルー でも胸のときめきを覚えるのだ。その時こそは誰一人、不当、 くなれば、人生はどんなに楽しいものであろうか、考えるだけ として善意の善人はいなくなり、 ているかしれぬのである。 くの聡明なる悪人、偽善者の増加することを、どれだけ希求し ルを守るフェアプレーのみの行われる世界となるだろうからで *オセロ=シェークスピアの悲劇『オセロ』の主人公。副官イアゴ 世のすべての悪人と偽善者との上に祝福あれ 理想を言えば、もしこの世界に一人 一人の純情の成人小児もいな

ある。

されば、

サンス期のマキアベリの思想。 ーの策略によって、貞淑な妻を疑い、嫉妬に狂って殺害したあげ を無視してもよいとした。 真相を知って自殺する。 国家の政治的目的のためには道徳 マキアベリズム=イタリアのルネ (中野好夫「悪人礼賛」)

文中の片仮名書きの а 5 cの傍線部に当たる漢字を含んでいる語句を、 次の各群のイーホのうちから、それぞれ一つずつ

問二 選び、 а 空欄Ⅰ~Ⅲに当たる語句として、それぞれ最も適当なものを次の各群のイ~ホのうちから選び、記号で答えよ。 クハイ 記号で答えよ。 1 ホ 敗北 廃止 拝礼 b ムキドウ ホ 1 岐路 軌跡 企画 法規 珍奇 С ケンボウ 朩 1 冒険 封建 研修 露顕

問三 I 空欄A ホ イ 咄 っ く 悠々 揚 遅 朗 ſ 々 々 Z Dに当たる語句として、 II 朩 悶えなん 喜々 易々 黙々 漠々 Ш 1 ホ 恟ょうきょう 陰々 嚇々 諾 粛 Z Z

それぞれ最も適当なものを次のイーへのうちから選び、 記号で答えよ。

傍線部1 「善意の善人ほど始末に困るものはない」と言う筆者にとって、 それゆえ /\ さらに 二 およそ 朩 「善意の善人」とはどのような人間なのか。 かえって

かりに

それ

問四四

に当たるものとして最も適当なものを、

次のイーホのうちから選び、記号で答えよ。

善意、 純情を売り物にして、他人にとっては退屈極まるものとは少しも思わない。

П 他人に迷惑をかけても平気で居直り、それどころか感謝をまでも強要する。

他人に接する場合のルールがなく、非人間的な行為であろうと意に介することがない。 自分が退屈をもて余すあまり、 おせっかいをして何とか退屈を紛らわそうとする。

ホ 動機が善意に発していることがすべてであって、結果に対して責任は解除される。

傍線部2「悪は決して無法でない」と筆者が言う理由として、最も適当なものを次のイ~ホのうちから選び、記号で答え

問五

ょ

悪は法に従いながら、その裏をかいて成果をあげる知的な行為であるにすぎないから。

П 悪といえども人間に共通する理法は逸脱できず、基本的なグラマーに則っているのだから。

悪は秩序を破壊するスリルを楽しみながら、 法律を犯すにしても、 悪は悪独自のルールに従って洗練したやり方をするから。 自らの秩序を構築するものだから。

朩 悪は道徳とは無関係に、 それ自体のルールに従ってフェアに展開されるのだから。

問六 傍線部3 「奇怪な義務」 と筆者が考える理由として、 最も適当なものを次のイーホのうちから選び、記号で答えよ。

純情披瀝の絶好の機会を与えてしまったから。

相手を詰問したために、

相手の善意の結果、ますます不当な被害を忍ばなければならないから。

不当な被害を受けながら、逆に相手の善意に感謝するほかないから。

= 相手の浅はかさを非難して、かえってその善意の深さを聞かされることになるから。

朩 底知れぬ相手の善意に恐怖しながら、つき合わされる羽目に陥ったから。

問七 傍線部4 「錦の御旗」 の意味として、最も適当なものを次のイーホのうちから選び、記号で答えよ。

虚辞麗句の見本 効果的な社交術 П 必勝確実な戦法

ホ 大義名分の源泉 華麗な外交手腕

最も適当なものを次のイー

ホのうちから選び、 隠れた貴重な物質

記号で答えよ。

社会を浄化する媒体 退屈を紛らわせるもの ハ

人類を固く結合するもの 朩 一見無用な有用品

問九

傍線部6「偽善者」は、

1

問八

傍線部5「地の塩」の意味として、

次 のイーホのうちから選び、 記号で答えよ。

筆者にとってどのような人間と考えられているか。それに当たるものとして最も適当なものを、

根は人が善いくせに悪人らしく振る舞い、 結局は善人であることが露見する人間

善人でありたいと願いながら、結果的に相手に不利や不幸を与えてしまう人間。

相手を傷つけ破滅させるために、善人らしい顔つきで近寄って策を弄する人間

ルールを無視したふりをし、いざとなるとルールを持ち出して相手を陥れようと図る人間。

=

ハ

ホ 悪人であることを相手に悟らせず、うわべはいかにも善人らしく振る舞おうとする人間

問十 1 三十歳 傍線部7 知命」を指す年齢として、最も適当なものを次のイー 四十歳 五十歳 六十歳 ホのうちから選び、 記号で答えよ。

ホ 七十歳

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

標準問題

(成城大・経済)

る。 え」とについて思いをめぐらさざるをえなかった。「ざえ」と 鎌倉期に近づくと、「からざえ」(漢才)という熟語として現れ は、才と書き、漢学を主としてのブッキッシュな知識を指す。 人物評価の基準として考えられていた「aたましひ」と「bざ の三影像に過ぎないが)について考えているうちに、 神護寺仙洞院に奉安されたという後白河院、 業房の五つの影像(今日残っているのは重盛、頼朝、 重盛、 頼朝、 私は当時 光能 光

行かなかった。

当時の人物評価を支配した基準に、肖像画家も

また従った。

れている。それは大雑把に言えば、上流貴族が世間で働くこと まとごころ」「こころだましひ」「世間だましひ」などとも言わ ましひ」(和魂)の熟語が現れ、 またほぼそれに近い意味で、「や それに対して「たましひ」は、平安中期にすでに「やまとだ

そのような「いろごのみ」の心も、 不幸に1オチイらせることのない広い包容力をも含んでいる。 て行く力であるとともに、多くの女に心を向けてその何れをも 大国主や倭建命以来、大人

の出来る能力の根源である。それは多くの人を統率し、

指導し

五柱の影像を試みた時、最も苦心したのは、 あるいは遺志に従って、 画像に魂を入れる

物の具えるべき要件であった。

その駆使に甘んずる下級官僚とを同じ2ヒッチで書くわけには 「やまとだましひ」を具えた大貴族と、そのようなものを欠き、 である。それは画かれる人物の高貴、 ことであった。言いかえれば、画像に生動の気韻を与えること c それに加えて、人品の上下を書き分けることが必要であった。 下賤に関係はない。だが

解答。

解説⇒別冊5ページ

能は、院の側近の使われびとであって、重みよりもある種 沈着とを具えた画像が要望されたであろう。それに対してe光 要があった。重盛、頼朝は、当代第一級の人物であって、当時 しても、d重盛、頼朝と、光能、業房とは、描き分けられる必 の言葉を用いれば、「やまとだましひ」の具備者として、威厳と には、それ相応の心構えがあったはずであった。それは別格と 神護寺仙洞院の五画像のうち、後白河院のような尊貴を描く の軽

のかなしみ、あわれみこそ画像のモチーフなのだと言ってもよ ることも、 翳が眉目のあいだに漂うことが願われたであろう。。 の注文主であった院の願いで、仙洞院に光能の画像を3カカげ 院の光能へのあわれみから発することであれ それは肖像

みが求められた。あまつさえ晩年の不幸を暗示するかなしみの

-日本の美の源を探る

問二

問四 問三

傍線部

d

「重盛、

頼朝と……必要があった」とあるが、

筆者によれば、

具体的には画像にどのような印象を与えることに

かった。 人であった。 失われた

栄子は院の後宮に入って、 高階栄子は院のお気に入りで、業房が非業の最後を遂げて後、 人で、院の「*御籠人」とさえ言われた。その上、 の側近であったという以上に、 権勢をほしいままにした。そのことを頭に入れると、 「f業房像」について言えば、 その今様狂い、 無類の寵愛を受け、 遊ぎ女、 皇子時代の遊び仲間 白拍子、 彼は光能のような院 傀儡女狂 内親王宣陽門院

その妻女の

ことに残念という外ない。

*御寵人=普通「きりゅうと」と読む。

(主君などに気に入られた)

切れ者。

(山本健吉

「いのちとかたちー

日本の美の源を探る―

どのような色をただよわせたか。

この影像が失われたことはま

業房の影に、

いの一 巻連の

の取

る。

光能の影に、かなしみの翳を添えた隆信は、

院が み、

「業房像」を隆信に描かせた気持は相当に複雑で、

かなし

あわれみの上に、

g 罪の意識すら加わっていたかと思われ

問一 傍線部1 ~3の片仮名を漢字に改めよ。

る。 傍線部c それを正 傍線部a 一確に記せ。 「たましひ」・b「ざえ」とあるが、 「それ」とは何を指すか。 指示する部分を本文中から抜き出して記せ。 日本の古代にはこの両者を具備する理想をいった慣用的な四字の熟語があ

問五 よって描き分けられると考えられているか。(ハ「重盛、頼朝像」、 から抜き出し、 傍線部e 「光能」、f「業房」両者の画像には、 各々九字以内で記せ。 共通した印象と共に相違も求められたと筆者は述べている。 (1) 「光能、 業房像」の各々において共通する語句を本文中 その相違の

問六 出 傍線部g「罪の意識」とあるが、なぜこの意識を持つことになると想定されるか。 その最初と最後の五字で示せ(ただし、 句読点は含まない)。 その理由を示す一文を本文中から抜き

せ

々の特徴を象徴的に述べた語句を本文中から抜き出して記

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。 (関西学院大・経済)

随 想 12 明け方、

の音がした。

紅葉した落葉を眺めていると、鈍く屋根を揺するあ

な木の空洞が無くなると、人家の屋根裏などの a 究 竟な場所に が2キゲンのよろしいときは夜明け前になる。 めに近い就眠に合わせるように、ムササビも帰還する。夜すが の中で活躍し、 離れの1ショサイから、寝床のある母屋へ戻るの 昼はしずかに木の空洞で睡る。 わたしのしのの がしいようだ。庭木を剪定してもらっていたら、

家族をおこさないように主のわたしは、息をひそめて寝床へ入 顔をあわせたこともない苦々しいこの同居者との歳月も長い。 忍び込む

神秘で殺気すら感じられる。

一度だけ失敗したムササビの飛行を偶然庭先で目撃した。

ら樹林の闇

なのか。 るのに、 歩する。 爪の音が板間に響いて3イゲンがある。どちらが主人 ムササビはつし(屋根裏の物置)の板間をb悠々と濶

庇に飛翔して着地したときは、どうしてもかすかな響みがおこ さに忍びのものである。このA魔障も、高みの樹々から屋根の は丁寧に二度も封じてくれたが、どうも今も巣くっているらし い。以前の奴のようにのんびりと爪音をたてるのではなく、ま

百年近くになる山家の隅々のどんな小さな隙間も、大工さん

るので、永年の同居者にはばれてしまう。

る。

にして、欅の梢の闇の中で鳴き交わす。春の夜にいちばんさわ 山家の庇から適当な距離と思われる。喉の肉を絞り上げるよう 谷間の竹藪の欅の大木数本があるので、 その欅へ飛ぶのは、

> 夜の闇をえいとばかりにムササビは跳ぶ。その魔障の飛行は、 と土手に落ちた。 滑空できなくて、 た梢にも巣くっており、 栗鼠よりやや大きいその体を、 大きな馬のベレー帽を投げたようにへなへな B白昼なので調子が悪いのか、うまく 体の布のように扁平にして 檜の葉の茂っ

解答・解説⇒別冊6ページ

に何かが当たったのはわかったが、庭に堕ちたムササビは樹 の闇に紛れ目にもとまらなかった。 ち当たり、わたしの突っ立っているそばに落ちた。むろん、電線 まりに低く飛んだために、母屋から離れへ引いてある電線にぶ 何があったのかと電線の方 々

び憂鬱そうにじぶんの体を舐めていた。二十年も昔のことであ 犬はかすかな呻きすらあげることなく、 み殺していた。ムササビは身悶える余裕もなく斃れてしまい、 一瞬の狩猟の後には再

を見上げているとき、すでに精悍なわたしの犬はムササビを咬

の日々はどうなっていただろう。 もしあのまま歩くことができなかったら、 わたしのこれから

八月の終わりにふしぎな怪我をした。高い崖を跳んで

去年、

はなく、

ので、仕方なくわたしが家の近くの古木にのぼった。

売る品で

F

空のまほらはかぎりなく浪漫的であるが、

実際には無間奈

ねばならないように思えてくる。

は過ぎたる内容の一首なので、そのあがないは何らかの形でせ る夏の雫となろうとねがう思いの*おぎろなさ。わたしの身に

かなり

落なのだ。その暗黒の深淵は、いくら骨をくだいても足りるも

お寺へ差し上げる槙なのでじぶんを励まして、

の作業も終了し、練達の切り手も来ておらず、残りの花もない

に立てる大きな槙の梢をほしいと友人が言ってきた。もう槙花

ある。あの4フリョの怪我をする半ヵ月前、お盆に大阪のお寺

たしに乗りうつりでもしたのか。 のはムササビだったかもしれない。

廻り道を避けてすこし高い土手を跳ぶのは、山住みの習慣で

もってわたしを脅かす。おのれを空しうして、宇宙と一体化す

一首を思い出す。Eあの怪我からいつもその歌が不吉な光芒を

一昨年、十年ぶりに出版したわたしの歌集、『樹下集』のその

銀河系そらのまほらを堕ちつづく夏の雫とわれはなりてむ

が意外にその崖は高く、着地した所が岩床だった。天狗と見た

ムササビの飛行の気合がわ

そのときわたしもひょいと気軽く小さな崖を跳んだ。ところ

のみずみずしい星空をさっと過ぎた。

かが今翔ぼうと呼びかけた。天狗のように黒い影が、夜明け前

吉野山の如意輪堂へ詣でる中千本の道すがら、

Dたしかに誰

かなければどうしようもない。 なに若々しく持とうとしても、 うに思うが、それではなぜそんな危険な崖を跳んだのかと言わ

れれば絶句せざるをえない。

覚をたしかめにきた。なにか紙一重のような所を助けられたよ

その上、脊髄神経の影響が下半身に出てはとりかえしがつかな

入院して数日間は食事も禁じられリンゲル注射ですごした。

いので、医師も看護婦も慎重であり、一日に何回も足の指の触

の冷や水だと言って、それ以後たびたび詰りたしなめてやまな

わたしの木登りを心配して覗きに来ていた細君は、c年寄り

本当の紙一重の所で助けてもらったが、去年の晩夏の怪我以

確実に老いの世界へ押し出されてしまった。気持ちをどん

体がぴちぴちとバネをもって動

と飛び下りた。むろん、斜面の岸側に岩や古株のないのをたし もたよりにして下りはじめたが、つい面倒になってしまいぱっ

かめ、全身をその斜面に同時に寝かせるように飛び降りる。

が潰れ、左足の踵の骨に環のようにひびがはいった。 かが跳べと耳もとで囁いたように思えて仕方がない。 くひょいとそこを跳んだ瞬間が微妙におかしいのである。 尻餅をついたのだから何もふしぎがることはないのだが、

第一腰椎

気軽 C 誰

高い木をよじのぼって梢の芯を数本剪り落とした。下りるとき、

『徒然草』の「高名の木のぼり」などを思い出しながら、枯枝で

おぎろなさ=果てしない深遠さ。

(前登志夫「森の時間」)

のではあるまい。

問一 傍線部a~cの語句の意味として、適当なものを一つずつ選び、記号で答えよ。

- 陠

а

究竟な場所

窮屈なところ

うす暗いところ

/\

頑丈なところ

- 目立たないところ 朩 好都合なところ
- b 悠々と濶歩する 安心して歩きまわること

П

朩

平気で大きな音を立てて歩くこと

こせこせせずいばって歩くこと

ハ

ゆったりとおおまたで歩くこと

- C 年寄りの冷や水 なんども同じところを歩くこと
- 老人が神仏祈願のため冷水を浴びること 老人が滝に打たれて身心を鍛えること 老人が若者の行為に水をさして嫌われること 老人が健康のため冷水を飲んで胃腸をこわすこと
- 朩 老人が年を忘れて元気な振る舞いをすること
- **問二** 本文は前半と後半に分かれており、前半には後半のためのいくつかの伏線が敷かれている。傍線部A「魔障」は、後半の
- 何と対応するか。次のイーホの中から当てはまるものを一つ選び、記号で答えよ。 如意輪堂 /\ 天狗 = 星空 ホ 奈落
- 問三 傍線部日は後半部のどの部分とつながるか。内容上、対応する本文を抜き出して記せ。(十五字以内)
- 問四 は 筆者の心の中に、どういう気持ちがあったためと、筆者は考えているか。本文中の表現を用いて、五十字以内にまとめて 傍線部C·Dで、誰かが筆者に「跳べ」と囁いたり、「今翔ぼう」と呼びかけたりしたように思えて仕方がない、というの
- 問五 答えよ。(句読点も字数に入れる
- ら一つ選び、記号で答えよ。 傍線部Eの「あの怪我」と「その歌」をつなぐ接点は、歌のどの語句にあるか。その語句を含む句を、 次のイーホの中か

初句 の解釈として適当なものを一つ選び、 \Box 第二句 ハ 第三句 記号で答えよ。

朩

問六 傍線部I F

底知れ ぬ奈落に墜落する恐怖は人間を暗闇の世界に引きずり込む不安と同等で

銀河系 底無しの の果てへの憧憬は無間の地底を通過したその暗い淵の彼方に実現する。 地獄に堕ちる覚悟なくして自己を宇宙の透明体と化すことの実現はない。

宇宙の空洞への憧憬はムササビの失墜にも似た粉骨砕身の覚悟によって実現する。

問七 朩 銀河系の放つ不吉な光芒の魅力に取りつかれた人間の骨折りを軽んじるものではな 次の文の中から、 本文の主旨に合致するものを二つ選び、記号で答えよ。

骨折体験を通して出家生活の魅力と限界を再認識し、 脱出先は宇宙しかないことを自覚する。

4 ササビと筆者との一体感はその住居だけではなく、 暗黒世界への飛翔の共有に及んでいる。

紅葉した落葉、 夜明け前の山の星空が人間に呼びかける浪漫性に接したとき、 初冬の Щ 夏の銀河系、 そのいずれもが歌人の感性をゆさぶる自然との合一である。 人は自然への回帰のとりこになる。

雫と化 天への感謝の気持ちは天との一体化願望となって筆者を襲い、 して宇宙を落下したい という思い ٤ 森の実生活とが切り結ぶ接点を歌人が模索している。 そのための骨折を苦痛とはしない。

問八

傍線部 1 ſ 4 の片仮名を漢字に改めよ。

随 想 16 次の文章を読んで、

旧制中学のころに、スケッチブックを片手に近所の山野をう

捺したようなことになっている。 いるのだから、この四十五年間、 が、その間私は住居をほとんど変えず、今も生家に寝起きして 須の日課となってしまった。ことわっておかなければならない ことなく、ここへ来て今や(つまりa四十五年をけみして)、必 ろつき始めた。その後この習慣は断続しながらも絶えてしまう わが散歩のコースもまた判で

いるといった具合なのだ。 ぬ間に日ごとのサイクルを終え、フト気がつくと玄関に戻って に適した地形と言えるだろう。
【A】、散歩に出た私は、知ら かな丘に囲まれて、一周千五百メートルほどの池もある。周遊

幸いにわが家の周辺には、1イゼン緑も少なくない。なだら

そして現在以降六千六百周するであろうと見積もる根拠もある。 えりみると、四千五百周乃至五千周とする根拠が私にはある。 何周この池を回ることになるのだろうか。現在までをざっとか

前記の池に関して、こんなことを思ったりする。私は生涯に

は、 望と言うのが正しいのかもしれない。しかし私が根拠という語 をここであえて使いたいのは、私の祖父がかつてこの池のまわ あるかもしれない。過去のことはともかく、私に残された日数 どうしてそんな根拠があると言えるのか、と反論するb向きが 当然のことながら、2サンテイ不可能なのだから……。願

> 動する4杭であった。 れて芽吹き繁り枯れる葦の間を歩き続けた。その頭はまるで移 ことを、彼が孫に示した先例と考えているからだ。 りを回ることを二十年間の日課として、3鯯八十五歳に及んだ 彼はc今もわが家に残る杖を片手にして、季節のめぐりにつ

解答・解説⇒別冊8ページ

物語を書きたいのだ。 を5ジクとした幻(ヴィジョン)を追って、家族を素材とした 気持ちのこのような持って行き方は、小説家だから仕方がな

もっと具体的に説明できることなのだ。 B

|私は、この祖父

呼ぶのかも、などと言わないでほしい。私は現在のこの状態は

今や私は、その幻を追い続けることになった。遺伝か、

血が

職業意識がつきまとっている。 もある。つまり、私の散歩には、**d**第二の本能とでもいうべき そこから深入りして、展開や増幅を考える。その経過でもまた そして一旦それを摑んだと感じると(手応えがあると)、今度は 摑もうとして、まるで水鳥の足のように心が働き続けている。。 目に触れるものは、二次、三次の手がかりを与えてくれること い。つまり目に触れるものをよすがとして、発想の手がかりを

あの牛は汲みあげ井戸のまわりを生涯回り続けるのだろうか、 自分の行動様式もあれに似ていなくはない、と。 私は時々誇張して、ナイルデルタで見た牛を思い浮かべる。

問

小川国夫「藁をも摑もうとする散歩 | 空欄A・Bに入れるのに最も適当なものを、 四十五年間も人生の苦労を重ねて

口 四十五年という長い時間を経て

四十五年間もじっと耐えて

かの収穫は、そのほとんどが散歩しなくても得られるものだ、

彼は言うであろう。……君が散歩の果実として誇ったいくつ

と思えてきたからだ。

が必要なのだ。

いわば、

С

といったセザンヌの感じ方に通じる状態

きあがってきた。きっと明敏な読者は反論してくるに違いない、

ここまで書いてきて読み返していると、疑念と恐れが心に湧

れが育つためには、まわりの刺激に目を奪われていてはならな だ単調さに浸っていると、その無風状態の中に幻想が育つ。そ ることができる。更にそれに関連する第二の利点は、馴れ親ん 物の変遷を見てとることができる。その発生や消滅も心に留め 退屈する反面、観察がくわしくなるという利点がある。一つの

しかし、それにしても、狭い範囲を繰り返し歩いていると、

今まで毎日の日課を忘れることなく 傍線部aの意味に最も近いと思われるものを、次のイ~ホから一つ選び、記号で答えよ。

傍線部1・2・5の片仮名の部分を漢字に直せ。 実に長い間このコースを歩き続けて

しかしながら このように ホ それに対して そのせいもあって

なるほど

君の口吻だと、その職業上の悩みにも散歩が解決を与えている いうべき職業意識がつきまとう、と言っているのはいいとして、

彼は更に言うであろう。……君の散歩には第二の本能とでも

]の醸成が散歩と切っても切れない関

係があるのだろうか、と。 くわしいaとかb

違う。僕には君の散歩する姿が見える。外見が移動するミイラ ようじゃあないか。散歩はそんなに万能薬なのだろうか。違う

枯れ野を行く男、それだけが散歩中の君の実情なのだ。 るのだろうか。つんのめりそうに、藁をも摑みたがって閣雲に のようなのは、君も池水に映るわが影を見て自覚しているらし いが、内面について、どうしてeそんな錯覚を抱くことができ

(小川国夫「藁をも摑もうとする散歩」)

次のイ~へからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えよ。

傍線部bの「向き」と同じ意味で使われている例を、次のイ~ホから一つ選び、記号で答えよ。

問四

1 御面倒ですが、御用の向きは勝手口にお回り下さい。

表向きは普通のサラリーマンだが、彼にはもう一つの顔がある。

我が国が今どっち向きの政策をとるのが賢いやり方だろうか。 子供向きの本だとばかり思っていたら、とんでもない代物だった。

ホ だれにでも向き不向きがあるのは当然のことだ。

問五 傍線部3・4の漢字の読みを平仮名で書け。

問六 傍線部c「今も」は後のどの部分を修飾しているか。次のイ~ホから一つ選び、記号で答えよ。

問七 傍線部d「第二の本能とでもいうべき職業意識」とは、どのような意識をいうのか。本文中の語句を用いて三十五字以内

残る

П

片手にして

ハ めぐりにつれて

ニ 芽吹き繁り枯れる

ホ 歩き続けた

問八

(句読点を含む)で説明せよ。

美は幻想の中に育つ П 絵には光と影の調和が大切だ ハ 曇り日には物がよく見える

空欄Cに入れるのに最も適当な文を、次のイーホから一つ選び、記号で答えよ。

問九 空欄a・bに該当する語(二字以内)を、それぞれ本文中から抜き出して記せ。 人間の目はいつも錯覚しやすい ホ 外界のまばゆさの中にこそ美は存在する

傍線部e「そんな錯覚」に含まれる内容として最も適当なものを、次のイーホから一つ選び、記号で答えよ。

散歩することによって祖父の幻が現れてくること 慣れ親しんだ単調さの中に幻想が見えてくること

筆者の散歩に本能的な職業意識がつきまとうこと

朩 池水に映る自分の影をミイラのようだと思うこと

散歩が小説を書く上で不可欠なものと考えること

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。(立正大・文)

ぬと思った。 よい天気だったので、散歩がてら八幡さままで出かけること 嵐 車を立てるのは、これは案外効き目があるかも知れい。

をした。八幡さまの鳥居の脇に、昔から土産物屋があって風車 と間違いなかった をつとに差して売っていた覚えがあったからだが、行ってみる にした。間を置くと、 面倒くさがりの癖が出るので、すぐ仕度

車はまわり出した。

静かな日なのに、

池の上を渡る風の道が幾

の中へ沈めた。沈めているうちにも、

С

軽い音をたてて風

店番をしていた中年の主人が、よくまわるのを探しましょう

うに渡して寄こした。二百円でいくらか釣りがきた。帰りは境 内を抜けて帰ろうと思って一歩踏み出すと、その主人が、 ド製の風車に息を吹きかけ、これならいいでしょうと、満足そ と立ってきた。 私は赤いのを二つ頼んだ。主人は赤いセルロイ

と、声をかけてきた。 A です

なにが B

なのか、

あ

を見詰めていた。

地に下りた白さぎはすぐわかるが、

かわせみ

主人の相手は私ばかりであった。 **①私には、** それが不思議であった。

大小三十尾余になった。 るいは別の人に云った挨拶かと思って、 ⑰庭に一坪半ほどの池がある。 道々考えたが、 納得は行かず仕舞であった。 馴れてくると、餌をやるのが楽しみで、 昨年も卵がかえって、金魚は 身辺をふり返ったが、

19

尾一尾の顔も模様も覚え、これとこれは親子というような血

統も知れてきた。 買ってきた風車を、 どれも駄金魚ばかりだが、 私はそれぞれ植木鉢の上に差し込み、 馴れれ ば可愛いも 池

解説⇒別冊ロページ

の山カガシも、 らしくなった。何代か棲みついた蛙も出来たし、それを眼当て 筋かあるらしい。底も側面もコンクリートの池だが、二十年経 ってみると、 ⑤ところが、昨年の春過ぎから白さぎや五位さぎ、かわせみ 周囲の草木や、水草が繁って、 確かに睡蓮の葉の上で日向ぼっこをする。 いくらか自然の水

異常に長くa魔法使いのお婆さんという恰好で、 さぎの幼鳥らしく、 番最初に私が見つけたのは、鳥類図鑑を調べてみると五位 羽根の色は茶褐色で瘠せており、 芝生から池 脚も嘴も 面

まで金魚をねらいにくるようになった。

これらの鳥は、庭のすぐ外を流れる滑川という小川の上を往き を睨んだ正面に出逢うと、なんとも1キョウアクな表情である。 か眼に入らない。飛んでいる時は美しい羽色だが、枝から水面 は大きな木の小枝にひそみ、そこから池をねらうので、なかな

きれいになって、みんな二十年か三十年振りにどこかから戻っ 来し、この池に寄り道して行く。滑川の水がここ数年少しずつ

てきたのである。

想 たし、オイカワ(はや)もいた。 細い流れだが、二十年前には稚鮎が上ってき

随 池の中を__D__歩いていることすらある。これでは金魚が全滅 二度三度と、この連中が池に近づいて金魚をねらう。時には

早速池の中の風車を見つけた。

私は前後のいきさつを、説明し

⑦その後、親しくしている友人が、久し振りに訪ねてきて、

なければならなかった。

「昔田舎で、緋鯉の養殖をしていた男の話では、稚鯉をねらっ

が、

――さあ、と云った切りだった。

云ったのはどういう意味だろうと、家の者の意見を聞いてみた

れれば、キラキラと光を放つ筈である。なるほどこれはうまく 金色や銀色の紐を蔵ってあるので、あれで2シメ飾り様の縄の する。どうしても一工夫必要になってきた。買物包みをしばる れんを作り、楕円形の池の上へ左右に張ることにした。風でゆ

は何かと質問される。これから正月の客に一々返事をするのは 煩に耐えぬし、他人さまの眼からみれば異様な眺めに相違な

b

家の者から思いがけぬ[E]が出た。来客があると、必ずあれ 行って、終日池の辺りが賑やかであったが、半月ばかりすると

私も応じてきたが、異様な眺めという家人の言葉遣いは腹立た いから、撤去して欲しいということである。来客の質問には、

残念でないことはない。

友人はニヤリと笑って、

来る早々から年長の私をからかった。

は通じそうもないぞ」

る。それが本当なら、君の工夫も残念ながら、五位さぎだけに は夜行性の鳥で、しかも群れて飛ぶという話を聞いたことがあ どいことをしたもんさ。白さぎのことは知らないが、五位さぎ て逃がしたもんだそうだ。気持はわからないことはないが、ひ てくるカワセミを、かすみ網で引っかけて、嘴を針金でしばっ

方が一息入れて休むこともあった。今年は氷の張る日もまこと めで、これなら文句はあるまいと4タイコウ意識が強かった。 しかった。金銀の3シメ縄を捨てて、風車を立てたのはそのた ⑦風車は二本が競うように、軽快に廻ることもあったし、一

それとなくひやかしたのではないかと思った。

さらに数日して、

いた。ふと私は、土産物屋の主人は私の風車の用途を察知して、

春めいた風をうけて、風車は相変わらず、[H]よく廻って

「これなら文句はあるまい」

にすくない。

「そうですね、赤でなければ、もっとよかったと思うけど」

あいつらが驚くんだ」

そんな会話をしたついでに、土産物屋の親父が、「 ̄G ̄」と

ばかりが水藻のかげに寄り添ったのを見た。これで全部かどう

かんじんの金魚だが、今年の暖冬のせいか、二月の末に十尾

です」と、家人は自信ありげに告げた。

わざわざ孫のために風車を買いにきたと思って、そう云ったん

「お土産屋さんの云った意味がわかりましたよ。お爺さんが、

か、

そんなに集まってはいけないのだがと、

この時もはらはら

(永井龍男「へっぽこ先生その他」)

問 空欄C・H 空 欄 A・ B・ G 1 空欄部に入れるのに最も適当なものを、 お楽しみ V V3 お天気 それぞれ次の語群の中から一つだけ選び、 ハ 結構なこと ご苦労さま 記号で答えよ。 朩 Va V3 お爺さん

空欄D

1

グルグル

スイスイ

ハ

カラカラ

_

ゴトゴト

朩

ヒラヒラ

ハ

忍び足で

_

わがも

ŏ

顔で

ホ

遠慮がちに

放言

朩

工夫

ハ

シ

メ縄よりも

1 1 苦情 泳ぐように 報告 П 人間 のように ハ 誤解

空欄F 1 とにかく風車で 馬でないから

傍線部aの表現に一致するものを、 あの色だからこそ 朩 うるさい客たち その喩法のはたらきから見て一つだけ選び、 記号で答えよ。

問二

高校野球のピッチャーと同じ動作で まるで童話の妖精のような姿をして 彼女はい それは記録映画の野鳥の生態そのもので かにもお婆さんくさい所作をして

問三 傍線部 魔法使いの超能力を発揮して 2 3 4の片仮名に該当する漢字を、 それぞれ一 つずつ選 び、 記号で答えよ。(2・3は同

のもの)。

2 3 対向 占 強悪 締 狂悪 対校 狭悪 湿 示目 恐悪 ホ 朩 注連 凶悪

対抗

朩

退行

22 問四 傍線部bの意味として、

正しいものを一つ選び、記号で答えよ。

わずらわしくてかなわない

想

随 とても恥ずかしい

「家人(家の者)」は、具体的にだれを暗示するか。最も適当なものを一つ選び、記号で答えよ。 舌も焼けるほど辛い

ホ 口

思っても頭が重 腹立たしく疲れる

問五

問八

⑦ ① ⑦

⑦ 国 纫

ハの分の

二 ⑦ ⑦

ホ

⑦ ⑦ ⑦

この随想の主題として、最も適当なものを一つだけ選び、記号で答えよ。

ハ

面倒くさがり屋の「私」にしては、てきぱきと行動し、池の金魚たちのために大活躍。

しかも、なおたえず金魚の心配を

にひやかされた自分に気づき、苦笑する心境

土産物屋のひやかしに気づかず、鳥類図鑑をしらべたり、金魚の全滅を案じたりさんざん苦労し、友人や家人に馬鹿にさ

セルロイドの風車を安く買い、シメ縄のおどしよりも効果をあげるのに成功し、以来毎日、自信たっぷりに暮らしている

池の金魚を野鳥の襲撃からまもるため、風車の利用を思いついた得意さのいっぽう、友人にはからかわれ、また土産物屋

n

る自分の愚かさと口惜しさ

問七

しるしと考え、それらの組合わせ例の中から一つを選び、記号で答えよ。

そんなに集まってはいけないのだがと、この時もはらはらした

土産物屋の主人は私の風車の用途を察知して、それとなくひやかしたのではないかと思った

異様な眺めという家人の言葉遣いは腹立たしかった

これでは金魚が全滅する。どうしても一工夫必要になってきた

どれも駄金魚ばかりだが、馴れれば可愛いものである

(=作者)」の気質が、最もよくうかがえる箇所として、適当と思われるものを一つ選び、記号で答えよ。

本文中、「私

「私」の家のお手伝い

「私」の妻

ハ「私」の娘

ホ 「私」の家によくくる友人

全文の構成を大きく三つに分ければ、どう分けられるか。改行部分冒頭に付けた⑦⑦⑦⑦⑦⑦の記号を、構成分割箇所の

問九 朩 念な思いにふけっていること したり、五位さぎの襲来を気づかっている、苦労性の告白 風車を買った「私」が、店の主人に言われたことをいつまでも気にし、金魚のために一工夫したが失敗し、くよくよし残

この随想の題名として、最も適当と考えられるものを一つ選び、 П 野鳥 風車 池の話 朩 記号で答えよ。 一工夫

金魚



答えよ。(北海道大

次の文章は山田太一著『いつもの雑踏いつもの場所で』の「子供のころの事など」の全文である。読んで、後の問いに

解答・解説⇒別冊12ページ

も不思議はないはずだが、そういうことにはならなかった。そ

ないのは、先生に叱られるのが怖いからで、他に理由がないこ 子供のころの私には「悪い事」をする同1ネンパイの連中に かなわないという思いがあった。自分が「悪い事」が出来

とを知っていた。いたずらをすると、された人がこういう2メ という思いがあった。 だけのことで、小、中学生ながら、それは意気地のないことだ はなく、ただ「いけない」といわれているからしない、という イワクをするからしてはいけないのだ、というような頭の働き

なり、金銭的にも逼迫し、伊豆の温泉場で、二度目の母の稼ぎいず、小学生の頃に母を亡くし、中学へ入ると家庭は3フクザツに で食わせて貰うというような時期もあり、ズック靴も靴下も買

とひと騒ぎという具合)に悩まされ、ガスなどない頃で、朝は たくと、大げさに泣き叫び、継母は中学生が幼児をいじめた、 継母の前ではいい子で、かげでは悪餓鬼。たまりかねてひっぱ えず、4スアシに下駄で冬の学校へ通い、継母の連れ子の裏表 (四、五歳の子供ではa無理もなく、恨みなどまったくないが、

きこまれるといった暮しで、今の教育論議からいえば、ぐれて

ない、と思う。

一家の夕飯をつくり、仕事の手伝いをし、父と継母の争いにま

出掛ける二時間前に起きて薪で飯を炊き、夕方はとんで帰って

ゃ子供はぐれますよ、というようなことを、ほとんどいわなか なかったことである。こういう環境で、こういう親なら、 は、今のように新聞、テレビが、子供について細かな議論をし なく「悪い事」に対する私の臆 病さ気の弱さだった、と思う。 れはしかし決して「b克己の精神」などというもののせいでは しかし、もう一つの理由もあった、とこの頃思うのだ。それ そり

った。少なくとも子供の耳には入らなかった。

受験生たちが、親の前で、俺だって殺すかもしれないんだから、 ように絶えず耳にしていたら、ちがった生き方をしたかもしれ 人の現実を見る目をあやまらせているという気がしてならない。 ある問題だ、というように一般化する議論が、6ビミョウに人 特殊な事件を、すぐ5センザイテキにはどの受験生の家庭にも 乱暴する権利があるのではないか、という気になる。ああした 扱いに気をつけてくれよね、といった顔をする。少しぐらいは おかれている状況」というような議論がひろがり、出来の悪い 今は、一人の子が金属バットで親を殺すと、忽ち「受験生の 私も当時「お前はぐれて当たり前だよ」という議論を、今の

て木の上で煙草をすったこともあるし、大きな旅館の露天風呂振りかえるとそうでもないのである。裏山へ友人数人とのぼっ へ染粉をほうりこんだこともあるし、隣の町の子供達と殴り合 の喧嘩をしたこともあった。 今の基準で考えると、その一つ一つが「非行」かもしれない。 や、こういうと、 私がバカに真面目に生きていたようだが、

ばれても、依然として「真面目な生徒」の部類に属していたの うかもしれない。ところがなんと私は、こうしたことが大人に たら、 草をすい、喧嘩をし、人の家へいたずらをしかける中学生がい は一向にしそうもない子ばかりである。そんな彼らの中で、 周囲を見ると、今の中学生は塾へ行くのが忙しく、そんなこと きっと目立ったろうし忽ち「非行少年」と呼ばれてしま 煙

> ひどく窮屈なのではないか、という気がする。 いていたのだ。 出来ないのだろう。と自分の気の小ささに1レットウカンを抱 である。もっと生き生きした「悪い事」をする連中が、 いくらでもいた。その中で、私はどうして自分は 今の中学生の現実がよく分からないが、 当時の事を思うと、 他愛ないこと、 「悪い事」が 周囲に

抱いた「悪い事」をする連中にはかなわない、 一時的な行動が「非行」ときめつけられ、ただテストの成績の い生徒ばかり栄えている、という気がする。 c誤解されることはない、と思うが、 私が小、 という気持ちを 中学生の頃に

社会は失ってはいけない、と思うのだが――。

問一 傍線部 1 5 7 何が無理もないのか、十五~二十字で記せ。 の片仮名を漢字で記せ。

問二

a は、

問三 傍線部bの 「克己の精神」という語句の意味を分かりやすく記せ。

問 傍線部cで、 筆者が言おうとしていることを八十字以内にまとめて記せ。

随 想 26 :は堀川に金八という聞こえた道具屋があった。この金八 次の文章を読んで、

者にもヒケは取らない、立派に一人前の男になった積もりでい んだので、 が若い時の事で、親父にも仕込まれ、自分も心の励みの功を積 大分に眼が利いて来て、自分ではもう内々、仲間の

働いて、もう親父から店を譲られても、 る。実際また何から何までにわたって、 取りしきって一人でや 随分に目も届けば気も

う、依然として金八の背後に立って保護していた。 り余る親切の気味から、まだ~~ぐらいに思っていた事であろ 同じ事で、親父はその1老成の2大事取りの心から、且つは有 って行かれるほどになっていたのである。しかしどこの老人も

渡すと、時代蒔絵の3結構な鐙がチラリと眼についた。ハテよ 軒の古道具屋があった。そこは商売の事で、ちょっと一ト眼見 金八がある時大坂へ下った。その途中深草を通ると、道に一

と、価を聞くと、ほんの端金だった。アゝ、 らぬと、何ともいえないその鐙のよい味に心は引かれながら、 腕で売れば確かに三十両にはなるものだが、片方では仕方がな べきものではないはずだが、それにしてもいくらというだろう は一方しかなかった。揃っていれば、もちろんこんな店にある といい、なかなかめったにはないよいものだが、残念なことに い鐙だナ、と立ち留まって見ると、いかにも時代といい、 少しの金にせよ売物にならぬものを買ったってどうにもな 一対なら、おれの 出来

> のを買って、両方合わせれば三十両、と早くも腹の中で笑みを 両方5後家になっていたのだナ、しめた、これを買って、深草 たしかに前の鐙と同じ鐙が片方あった。ン、これが別れくへて 道具屋に行くと、偶然といおうか天の引き合わせといおうか、 すがによかった。ところが、それから道の程を経て、京橋辺の くらよい物でも商売にならぬものを買わなかったところは4さ

振り返っては見つ、も思い捨て、買わずに大坂へと下った。

解答・解説⇒別冊13ページ

ころか大怒りで、「たわけづらめ、欲に気が急いて、鐙の左右に かった。ハッと気が付いて、「しまった。向後気をつけます。御 も心を付けずに買いおったナ」と罵られた。金八も馬鹿じゃな もちろん親父に悦ばれるつもりであった。すると親父は悦ぶど 先方の言い値で買って、我が家へ帰るとすぐにこの話をした。 しかたがないから割に高いけれども、腹の中に目的があるので、

どの物は片方にせよ稀有のものだからと、なか~~安くない。 含んで、価を問うと片方の割合には高いことを言って、これほ

させたのだ。心さえ急がねば謀られる訳はないが、 をして同じその鐙を京橋の他の店へ埋めて置いて金八に掘り出 なかった鐙を、深草で値を付けさせて置いて、捷径のまわり道 名を付けられたということである。これは、 もとより片方しか

やられぬ前にというのと、なまじ前に熟視していて、

テッキリ

免なさいまし」とお辞儀したが、それから「片鐙の金八」と渾

同じ物だと思った心の虚というものとの二ツから、金八ほどの る、そんなうまい事が有るものではないというところに勘を付 親父はさすがに老功で、後家の鐙を買い合わせて大きい利を得 者も左右を調べることを忘れて、一杯食わせられたのである。

けて、すぐに右左の調べに及ばなかったナと、紙燭をさし出し ろん深草を尋ねても鐙はなくって、片鐙の浮名だけが金八の利

て欲心の暗闇を破ったところは親父だけあったのである。もちて欲いる。

満の者は一服頂戴せぬとは限るまい。 屋とか、東京と北京とかの間でこの手で謀られたなら、欲気満 得になったのである。昔と今とは違うが、今だって信州と名古 (幸田露伴「骨董」)

傍線部1「老成」はここではどういう意味で使われているのか。 簡潔に答えよ。

傍線部2「大事取り」とはどういう意味か。簡潔に答えよ。

問

問三 傍線部3「結構な」はここではどういう意味で使われているのか。 簡潔に答えよ。

問五 問四 味で使われていると思うか。簡潔に答えよ。 傍線部5「後家」は今ではほとんどつかわれなくなった意味で使われている。話の内容から推して、ここではどういう意 傍線部4「さすがに」はここではどういう気持ちをこめて使われているのか。本文中の語句を適宜利用して簡潔に答えよ。

随 者は日和見主義者と言って、ものの役には立たぬ連中である。 そういう考え方を、現代の政治主義ははやらせている。もっと でなければ好戦派、どっちともつかぬ意見を抱いているような 左翼でなければ右翼、進歩主義でなければ反動主義、

平和派

葉は書かれていないことがわかる。

糧ぐらいにしか考えていないことは、1シュウモクの見るとこ 現代の政治が、ものの考え方など、権力行為という獣を養う食 自律性というものに対するひどい侮蔑を含んでいるからである。 なぜかと言うと、aそういう考え方は、およそ人間の考え方の

も、これを、考え方と称すべきかどうかははなはだ疑わしい。

ろである。

らす様を、到るところに見たであろう。行動を3チョウハツし 葉は死語であると思う。おそらく、彼は、行動が思想を食い散 たことを2ネントウに置いて考えなければ、中庸などという言 彼が生きた時代もまた、政治的に紛乱した恐るべき時代であっ 昔、孔子が、中庸の徳を説いたことは、誰も知るところだが、

彼の言葉を読むと、まさにそういうふうにしか、中庸という言 う。行動主義、政治主義の風潮のただ中で、いかにして精神の いうふうに、私には想像される。そういうふうに想像しつつ、 中核に、自ら中庸という観念の生まれてくるのを認めた、そう 権威を打ち立てようかと悩んだであろう。その悩ましい思索の やすいあらゆる極端な考え方の4オウコウするのを見たであろ

> c いわゆる中庸を得たものの言い方などしてはいないのである。 「天下国家モ均シクス可シ、爵禄モ辞ス可シ、 b|庸を説く孔子の言葉は、たいへん烈しいものであって、 白刃モ踏ム可

シ、中庸ハ能クス可カラザルナリ」

んな言い方が必要だったのだろうか。むろん、彼の言う中庸と ば、何もかも皆易しいことだと言うのである。なぜ、彼にはこ つまり、中庸という実践的な知恵を得るということに比べれ

は、両端にある考え方の間に、正しい中間的真理があるという

体の絶対的な価値の救助とか、回復とかがめざされているのだ。 難いものであったかを示す。さまざまな種類の正しいと信じら が問題なのではない。およそ正しく考えるという人間の能力自 れた思想があり、その中で最上を判定するものを選ぶことなど い方は、彼が考え抜いた果てに到達した思想が、いかに表現し ような、簡単な考え方ではなかったのであって、上のような言

そういう希いが中庸と名づけられているのである。

d彼の逆説

的な表現は、この希いを示す。私はそう思う。

「中庸ハ其レ至レルカナ」

と言い、小人の中庸は「忌憚ナシ」と言う。こんなことは空想 入しているのは、興味あることだ。 ところで、彼が、君子の中庸と、小人の中庸とを区別して記 君子の中庸は「e時ニ中ス」

言っているのだ。そういう生活の知恵は、君子の特権ではない。 孔子は言っているのではない。いつも過不及があり、いつも変 家には言えないのである。中庸という、過不及のない、変わら わっている現実に即して、自在に誤たず判断する精神の活動を ぬ精神の尺度を、人は持たねばならない。というようなことを

事に臨み、変に応じて、命中するが、そういう判断の自在を得 ただ、この知恵の深さだけが問題なのである。君子の中庸 誠意と努力とさえあれば、誰にでも一様に開かれている道だ。 ることはむずかしく、小人の浅薄な中庸は、一見自由に見えて、

見える。つまり「忌憚なし」である。 実は無定見にすぎないことが多い。考えに自己の内的動機を欠 いているがために、かえって自由に考えているような格好にも

る。

むろん、

の中庸という思想の発想の根拠があったように、私には思われ

ことの最も少なかった人である。ついに事成らず窮死したが、 君子固ヨリ窮ス」と嘆いただけで、殉教者の感傷のごときも 孔子は一生涯、倦まず説教し通したが、説教者の特権を頼む

> を説得したい、背じない者は殺してもいい、場合によっては自 分が殺されてもいい。ああ、何たる狂人どもか。そこに、孔子 ンパしていたようである。真理の名の下に、どうあっても人々 れて生長すると、世の中にはろくなことは起こらぬことを5月 のうちにも、予言者と宣伝家とがひそんでおり、これが表に現 に健全な懐疑の裏打ちがあったように思われる。 たところは少しもなかった。それどころか、 f彼の知恵には常 彼は、 誰の心

のは、全く見られない。深い信仰を持っていたが、予言者めい

暗愚の不滅を思い、不思議の感をなしているのである。 志を得ずして死んだ人間の言葉の不滅を思い、あわせて人間の 私は説教などしているのではない。二千余年も前に (小林秀雄「常識について」)

問一

傍線部1~5の片仮名を漢字に直せ。

問四 問三 問二 傍線部 傍線部bの 傍線部cの aについて、 「中庸」(孔子の説く中庸)とは、どんなものだと筆者は言っているか。七十五字以内で答えよ。 「いわゆる中庸」とほぼ同じ内容の書かれている部分を抜き出せ。 どうして、「そういう考え方」は「ひどい侮蔑を含んでいる」ことになるのか。五十字以内で答えよ。

問五 か。

問六

傍線部e「時ニ中ス」を筆者はどのように解しているか。

傍線部d「彼の逆説的な表現」とは、「天下国家モ均シクス可シ……」の文を指しているが、なぜこれが逆説的な表現なの 「白刃モ踏ム可シ、 中庸ハ能クス可カラザルナリ」の部分で説明せよ。(五十字以内

傍線部f「彼の知恵には……あった」とは、どういうことか。筆者の考えに即して答えよ。(五十字以内)

31

実生活の鬼の影が風流に纏るためかも知れず、

または句に熱し

歓楽を嫉む

んで、詩と句の中に放り込む事が出来ない。それはc

どこかに間隙があるような心持がして、隈も残さず心を引き包

記

の中に書き付けた。

え作って見た。

そうしてその

漢詩も一つ残らず未定稿として日

7 句

を日記 修善寺に の中に記け込んだ。 次の文章を読んで、 いる間 は仰向に寝たままよく俳句を作っては、繋が、** 時々は面倒な1平仄を合して漢詩さ 後の問いに答えよ。(千葉大)

それ

にせよ、 から 整って) 得意であっても、それが専門家の眼に整って(ことに現代的に は、 けれどもa 余は年来俳句に2疎くなりまさった者である。 殆んど当初からの いうと、 映るとは 病中に出来上がったものが、 余が病中に作り得た俳句と漢詩 全くその出来不出来に関係しないのである。 無論思わない A 漢といっても可い。 病中の本人にはどれほど の価値は、 漢詩に至 詩にせよ、 つ

中でさえ焦々している。 ら認められる以上、 の人である。 けの健康を有っていると自信する以上、また有っていると人か は 仏語で形容すれば絶えず火宅の苦を受けて、 われは常住日夜共に生存競争裏に立つ悪戦 時には人から勧められる事もあり、 夢の 偶な

には自ら進む事もあって、ふと十七文字を並べて見たり、または

4

В

如何に心持の好くない時でも、いやしくも塵事に堪え得るだい。 余自身 即ちわが句、わが詩である。従って、出来栄の如何は先ず措:めない長閑かな春がその間から湧いて出る。この安らかな心が て、 か分からない。 が気の毒だという遠慮がある。 出来たものを太平の記念と見る当人にはそれがどの位貴 病中に得た句と詩は、

来の には、 り詩なりに仕立て上げる順序過程がまた嬉しい。漸く成った 晩*** 更に嬉しい。果たしてわが趣とわが形に真の価値があるかない が既に嬉しい。その興を捉えて横に咬み竪に砕いて、これを句な 強いられた仕事ではない。 漲り浮かんだ天来の彩紋である。 われともなく 興の起こるの 自由に跳ね返って、 形 0 ない趣を判然と眼 むっちりとした余裕を得た時、 実生活の圧迫を逃れたわが心が、 の前に創造したような心持がして 油紫んと 本

ものは多量の不安と苦痛に過ぎない事に帰着してしまう。 らすまじき風流にいらいらする結果かも. 詩に狂するのあまり、 だ二、三同好の評判だけで、 いくら佳句と好詩が出来たにしても、贏ち得る当人の愉 かえって句と詩にる その批評を差し引くと、 知れないが、 翻弄されて、 それでは 後に残る 快は いら

解説⇒別冊16ページ

遠ざかったように大目に見てくれる。 ても済むという安心が出来、 分が一歩現実の世を離れた気になる。 ところが病気をすると大分趣が違って来る。 向うにも一人前として取り扱うの そうして健康の時にはとても望 他も自分を一歩社会から 此方には一人前働かなく 病気の時には 自

退屈を紛らすため、

(夏目漱石「思ひ出す事など」)

想

は顧みる遑さえない。

随 破線部 傍線部1~4の漢字の読みを平仮名で記せ。 「専門家」の対語となるように、空欄Aに適当な漢字二文字を入れよ。

空欄Bに入る最も適当な言葉は、次のイ~ニのうちのどれか。記号で答えよ。

問四 本文中の「余」は、平生の自己をどのようなものとして認識しているか。該当する表現を本文中から抜き出せ。 諸行無常 春夏秋冬 序破転急 起承転結

問五 傍線部b「何時もどこかに間隙があるような心持」がする理由の一つとして、傍線部c「歓楽を嫉む実生活の鬼の影が風

問六 読点を含む)。 流に纏る」ということがある。「歓楽を嫉む実生活の鬼の影が風流に纏る」とはどのようなことか。五十字以内で説明せよ(句 傍線部aにおける「余」は、 「病中に作り得た俳句と漢詩の価値」をどのようなところに見いだしているか。六十字以内で

問七 記せ 次の作品群イーチのうちから、 (句読点を含む)。 夏目漱石の作品を三つ抜き出し、 成立順に記号で記せ。

和解 行人 羅生門 舞姫

高野聖 チ 吾輩は猫である

朩

明暗

春

33

供はそれらの花は、以前にもう買ったことがあるからとしりぞ

ちろん私は買う気などなくて、小銭と藤の不釣合いなおかしさ を笑ってすませ、藤の代りに赤い草花をどうかとすすめた。子

る高価である。とてもガマロの小銭で買えるものではない。

₹



次の文章を読んで、後の問いに答えよ。(実践女子大・文)

やかすのが好きだった。父は私に、娘をそこへ連れていけ、と そのころ町にはよく縁日がたって、人々は植木や鉢ものをひ

うのだった。 たりすると娘は私の手をかたく握って、引っ張った。 れだけしゃべらせて、なんだ、買ってくれねぇのか」といわれ く見え、私は娘の手をひいて、植木屋さんとはなしをした。「こ も、草木へ関心をもたせる、かぼそいながらの一手段だ、とい 町に育つおさないものには、 水を打たれた枝や葉は、 縁日の植木をみせておくの カンテラの灯にうつくし

植木市がたつ。お寺の境内へ、かなりな商品が運びこま

んだとは、花を見るたしかな目をもっていたからのこと、なぜ

ところが夕方書斎からでてきた父が、みるみる不機嫌になっ 藤の選択はまちがっていない、という。市で一番の花を選

うど私の身長と同じくらいの高さがあり、老木で、あすあさっ てんから問題にならない高級品を、無邪気にほしがったのであ てには咲こうという、 た。それは花物では、 た午後だった。娘がほしいといいだしたのは、藤の鉢植えだっ の好む木でも花でも買っちゃれ、という。汗ばむような、 れ、ちょっとした市なのである。 蕾の房がどっさり付いていた。子供は、 うばき おめず臆せずねだるが、聞かずとも知れ 市のなかのーお職だった。鉢ごとでちょ 父は私にガマ口を渡して、娘 晴れ

> でなくても、山椒でも子供は無邪気に喜んでいた。(A) に玉子焼をつけたお弁当が、大好きだったからなのである。 ぼしを、醬油でいりつけたのをごはんにぱらぱらとまき、 のをと嫌味にすねたのではない。彼女はさんしょの葉としらす 椒だった。ほしいものが買ってもらえなくて、 け、小さい山椒の木を取った。お職の藤から一度に大下落の山 わざと安値のも お菜

解答・解説⇒別冊18ページ

つけたのは自分だ、 顔になっておこった。好む草なり木なりを買ってやれ、 つかず、それでも藤はバカ値だったから、と弁解すると父は真 るべきものだったのに、という。そういわれてもまだ私は気が その確かな目に応じてやらなかったのか、2藤は当然買ってや ┃ Ⅰ ┃ わざと自分用のガマロを渡してやっ とい

た、子は藤を選んだ、

┃Ⅱ┃なぜ買ってやらないのか、金が足

ろうと、なぜ思わないのか、その藤をきっかけに、どの花をも 多少値の張る買物であったにせよ、その藤を心の養いにしてや というが、いったい何を物差にして、価値をきめているのか、 りないのなら、ガマロごと手金にうてばそれで済むものを、 でいる。なんと浅はかな心か、 まえは親のいいつけも、子のせっかくの選択も無にして、平気 Ш 】 藤がたかいのバカ値

いとおしむことを教えてやれば、それはこの子一生の心のうる

34

おい、女一代の目の楽しみにもなろう、◯Ⅳ◯またもっと深い

想

もあった。話しても説いても、心が動かないようだった。それ

ぬ女が、どんなに味気ないものか、子ながらうとましく思う時

随

子のからだに、心に、

めつけられた。

えない処置には、あきれてものもいいえない――さんざんにき ればかり思うものだ、金銭を先に云々して、子の心の栄養を考

藤の代りに買い与えた山椒が、叱られたあとの感情をよけい

なれ、とひそかに祈った。(C)

けれども、私のおもわくはがらりと外れた。いいほうに外れ

そのことあるたびに心はいたんだ。が、そのまま娘は人のもと

年々四季はめぐる。芽立ち、花咲き、みのり、枯れおちる。

へ縁付いた。孫がうまれた時、この子は草木をいとおしむ子に

もう、3その子が財産をもったも同じこと、これ以上の価値は

杉へと関心の芽を伸ばさないとは限らない、そうなればそれは aキエンがあれば、子供は藤から蔦へ、蔦からもみじへ、松へ

ない、子育ての最中にいる親が誰しも思うことは、どうしたら

そかった。

分にある、とつらい思いをした。いくら辛く思っても、もうお カイすることが度々あったのだが、今更ながらこの4責任は自 までも私は、あの時の藤でチャンスを失ったらしいと、cコウ

いい養いをつけることができるか、とそ

優しい心をもつほうなのだが、野良犬にふみ倒された小菊を、

たちだった。

心でもあり、改めて藤に見参しようという気もあっての、思い

この春、東京に近い地域の、古藤といわれる花を見て歩いた。

い、と思うようになった。追憶でもあり、あの藤のときの詫び

そのころから、しきりに、一度はどこかへ藤の花をたずねた

庭木の枯れ枝を一本切るにさえ、しぶりがちである。ほかには 動かないようだった。世話をして花を咲かすなどは、面倒そう。 木を見ても、大きな木ねというだけ、植物にはそれ以上は心が

おこしてやろうともしない固さなのである。草木をいとおしま

心を改め、縁日のたびに子に花のたのしさをコーチしたのでは

な感じがしたのだが、もっと意外だったのは、そういう夫につ

柄というかが、やっと形になって現れはじめたのである。意外

れて娘もしみじみと花をみつめ、芽をいとおしむ気をもったこ

子がうまれ、結婚生活が落ち付いてから、その趣味というか心

てようとする人だった。土をいじり、種をまいて喜ぶのである。 たのである。思いがけないことに、娘の夫は花を好み、木を育

子は大きくなっていった。花を見ても、きれいだというだけ、

とだった。(D)

だが、叱られたのは身にしみたが、さればといってその後私が なく刺した。誰のためにあがなった木だろうと、思わされた。 ば高い香気をはなち、嚙めば鋭い味をひろげ、棘はbヨウシャ せつなくした。一尺五寸ほどの貧弱な木だが、鮮緑の葉は揉め

ない。(B)

幸田文「木」 問一 本文中の空欄Ⅰ~Ⅳを埋めるのに最も適当なものを、 しかも ただし もし

える。なんということもなくこの花に「情緒」という言葉を思 からには、 と思い、また、いやいや待てよ、6そう何も彼も身にひきつけ だと私をきめつけたのも、花が藤だったからのせいもあろうか、 であったかと察し、亡父があの時あんなにおこって、心浅い女 い当てた。植木市のなかで幼い目が捕えたのも、あるいは情緒 れ、これも美しい。藤波というが、風がわたればまさに波とみ よく似てしかもそれぞれだった。長い房はメートルを越して、 がる、ように思いちがえる。遠見はその通りだが、近くみれば く褪めていたし、今さかりなのは紫が濃いようにみえた。 る花でも、 dユウガである。短い房は、同勢そろって、さざめくように揺 のがじし、 収支計算したがることこそ、よこしまだ、とも思いなおし 園の藤、棚の藤というと、一面ひとつらの幕になってさ 根まわり何十尺と数える太さもさることながら、そ 花よりもその根に、おどろいた。千年の古藤という 花房に長短があり、花色も、早く咲いたものはうす 咲くもののようである。 花はどの花もおのがじし咲 5 お しばられたのだろうか。 V3

させるとともに、ひどく素直でないもの、我の強いもの、複雑 てくる力があって、連れの人にうながされるまで、私は佇んで 美しさをどうしようとおろおろしてしまう。だが、それならと 足もとは見るもこわらしく、 の形状のおどろおどろしいのには、目が圧迫された。うねり合 いって、立去れもしなかった。こわいものの持つ、 eシュウカイを感じさせた。花はどこまでもやさしく美しく、 い、からみ合い、盛り上り、這い伏し、それは強大な力を感じ 1この根を見て花を仰げば、 押さえつけ 花の

野や山に自然のままにある藤でなく、人に培われ、かばわれて

いる藤である。みな、美事な花をつけていた。一枝についてい

ある。こんなことを思うのは、 があるし、また一方、今度は山に谷に生きる自然の古い藤、若 る。根には今度このたび新しく対面した、という印象が濃 い藤の、花も根も見せてもらおう、とも心づもりしているので いずれ、まだこの次も、その根に逢いにいくだろう、という気 花にむかっては、追憶も詫びも済ませてきた、という思いがあ 橋をも吊るという、藤の強さに

どう考えていいか、いまもって納得はついていない。ただ、

次の中からそれぞれ選び、記号で答えよ。

(幸田文「木」)

だのに

١

だから

ホ なぜ

随 想 36 私はそれでよい、と思ってうたがわなかった。 子に怠ったことを、孫でつとめたいと思った。 段落末尾の空欄A~Dに位置させるのにふさわしいものを、 ほっとして、私はもう孫のことも安心した。 私は父をうらんだ。 次の中からそれぞれ選び、

ホ 娘は娘、 孫は孫と観念した。 とかくルーズなのである。

傍線部1の語の意味と最も近い五字以内の語句を抜き出せ。

問四

傍線部2と判断した理由につながるものを、

次の中から二つ選び、記号で答えよ。

浅はかな心のなせるわざだから 物差は固定させてはいけない

花を見るたしかな目が育つから 多少値の張る買物だから

問五 朩 関心の目が伸びるから 傍線部3の「財産」を具体的に説明していると思われる箇所を、 傍線部4の「責任」が生じることになった背景は、どのようなものであったか。 親のいいつけは絶対のものだから 句読点とも三十字以内で抜き出せ。 句読点とも四十字以内で具体的に記せ。

問七 てんでんばらばらに咲くもの 傍線部5の意味として最も適当なものを選び、記号で答えよ。 自分勝手に好みの花をつけるもの

各自おもいおもいに咲くもの = 放っておかれた方がよい花を咲かすもの

花はすべてあなたまかせで咲くもの

傍線部6のように筆者が思いなおすきっかけとなった考えはどのようなものか。

次の中から最も適当と思われるものを選

花の美しさはあくまで花自体の美として、 過去の自分の失敗まで花のせいにしてしまうのは、 純粋に味わうべきである。 卑怯な態度だ。

記号で答えよ。

追憶や詫び心といったふうに、なにごともわが身にひきよせて考えるのがよい。

朩 花の美も身近に感じてこそ、計算できないねうちが生まれるものだ。

花の美しさまで金に換算するのはどうかと思う。

問九 傍線部1の意味として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

問十

根と花との一見矛盾したつながりを、どう理解したらよいかとまどう。 この根のみにくさとあの花の美しさは、どこかで激しく争っているようだ。

花はすべてが美しい、という先入観念のむなしさをつきつけられたじろぐ。

傍線部a~eの片仮名を、正しい漢字に改めよ。

根の状態を見せられたら、花であることを止めてしまったようだ。

藤は根と花とがじつはつながっていないのでは、という妄想にとらわれそうだ。